



那須塩原・リンツ

姉妹都市提携 10 周年記念事業

2026 年 6 月 13 日、那須塩原市とリンツ市が姉妹都市提携を結んでから、10 周年という記念すべき節目を迎えました。この 10 年間、様々な交流事業を行うことができたのは、オーストリアやリンツ市、そして国際交流員の活動に興味を持ってくださる市民の皆さんのおかげです。いつもこのニュースレターを読んでいただき、誠にありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

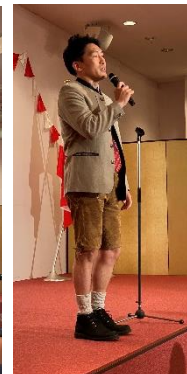
リンツ市訪問団の日本文化体験と歓迎レセプション



毎年恒例の中学生ホームステイ交流事業として、5 月 13 日、那須塩原市はリンツ市アウホフ校の生徒 29 名と引率の先生 3 名を迎えました。ホストファミリーとの生活が始まる前に、まずは日本の文化に親しんでもらおうと、那須塩原市国際交流協会の主催による「日本文化体験」が開催されました。最初は少し疲れ気味だった生徒たちですが、着物に袖を通すと一気にエネルギーが湧いてきたようで、楽しそうに日本舞踊の練習に励んでいました。扇子の使い方もあっという間にコツを掴み、初めてとは思えないほど素晴らしい「さくら」と「鶴亀」のパフォーマンスを披露してくれました。

また、その日の夜には姉妹都市提携 10 周年を記念した、特別な歓迎レセプションが開かれました。中学生海外派遣事業に関わっているホストファミリーの皆さんのほか、来賓として駐日オーストリア大使館参事官のアルノ・ミッタードルファー氏と、青木周蔵氏の子孫であり本事業の礎を築いたニクラス・サルム＝ライファーシャイト氏にもお越しいただきました。

リンツ市の中学生が日本の友達と再会を果たす場面では、会場全体が温かい拍手に包まれる、とても感動的な瞬間となりました。さらに、那須塩原ならではの「牛乳で乾杯！」が行われたほか、市のユース合唱団による日本とオーストリア両国の歌も披露されました。那須塩原市長をはじめ、市民の皆さんとリンツの皆さんが和やかな雰囲気の中で絆を深め合う、素晴らしい一夜となりました。





那須塩原・リンツ

オーストリア音楽家のコンサート



5月22日、三島ホールにて、リンツ市を拠点に活動する姉妹デュオ「DUO SONOMA (デュオ・ソノマ)」のコンサートが開催されました。ギターとヴァイオリンが織りなす美しいアンサンブルと素晴らしいパフォーマンスに、会場全体が魅了されました。当日はあいにくの天候だったにもかかわらず、会場には多くの方が足を運んでくださり、終演後には「ぜひまた日本でコンサートを開いてほしい」といった

感動の声が多数寄せられました。

また、先日の歓迎レセプションに続き、2週連続で駐日オーストリア大使館のアルノ・ミッタードルファー氏がお越しくださったほか、今回は初訪問となるシグリッド・ベルカ大使も那須塩原市をご来訪くださいました。姉妹都市提携10周年の節目にふさわしい、大盛況のコンサートとなりました。



国際交流員 活動報告

姉妹都市提携10周年のお祝いが続く中、私は国際交流員として、日々さまざまなイベントを通じて那須塩原市の皆さんとオーストリアの文化を共有できる機会に恵まれ、大変うれしく思っています。

6月18日、共英小学校にて「世界の国々について知ろう！」というテーマのもと、「ミニ・グローバルコミュニケーションデー」が開催されました。私は市のALTの皆さんと共に講師を務め、それぞれの出身国の魅力について紹介しました。「オーストリア人は普段どんなものを食べているの?」や「日本で驚いたことは?」といった児童からの純粋な



質問に答えるなど、笑顔あふれる楽しいひとときとなりました。

また、6月20日には国際交流協会が主催する「交流サロン」にて、「オーストリア・クイズ」を開催しました。日本の方々と外国の方々が集う中、お互いの国のユニークな文化についてたくさん語り合いました。なかでも、「オーストリア人はハイキングが好きすぎて、雨の中でも登山をすること」や「オーストリアの祝日には芝刈りが禁止されていること」をお話しすると、参加者の皆さんは本当に驚かれ、会場は大いに盛り上がりました。



国際交流員派遣事業の詳細についてはこちらのQRコードから
ご確認いただけます。たくさんのご依頼をお待ちしております。





那須塩原・リンツ

いきいきとした姉妹都市交流

那須塩原市内の保育園「西那須野キッズハウス」と、リンツ市にある「クロイツシュヴェスタン幼稚園」は、お互いの国の様子を伝えるため、数年前からアルバムの交換を続けています。

先日、クロイツシュヴェスタン幼稚園に那須塩原からの新しいアルバムが届きました。子どもたちは興味津々な様子で、日本の写真をとても楽しそうに見つめていたそうです。特に、オーストリアにはない行事である「こどもの日」の、大きな鯉のぼりの写真が大人気でした。現地の先生からは、「今度は私たちも日本の伝統にふれ、七夕の願い事をしてみたいです！」という、嬉しいメッセージも寄せられました。



オーストリアの夏を彩る、野外コンサートの世界

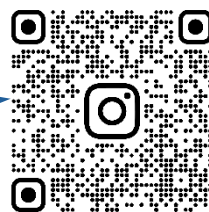
オーストリアの夏といえば、私にとってまず思い浮かぶのが野外コンサートです。日本と違って夏でも湿度が低く、外で心地よく過ごせるのが大きな特徴です。そのため、テラスカフェや公園が夏の人気スポットになりますが、同じように夜風を感じながら屋外で音楽を楽しむ文化も深く根付いています。「野外コンサート」と聞くと、ロックフェスのようなイベントを想像する方が多いかもしれませんが、しかしオーストリアの場合、その主役となるのはやはりクラシック音楽やオペラです。

クラシックやオペラにあまり詳しくない方でも、オーストリアの野外コンサートは存分に楽しむことができます。ステージがかつての採石場の中や湖の上に設置され、素晴らしい舞台装置が築かれるからです。さらに、最新の舞台演出によって演者が宙を舞ったり、ダイナミックな炎の演出があったりと、豪華な衣装や小道具も相まって、誰もが夢中になる圧巻のステージが繰り広げられます。なかでも特に有名なのが、毎年7月から8月にかけて開催される「ブレゲンツ音楽祭」です。ボーデン湖の水上に設営された巨大な水上舞台は圧倒的な迫力を誇り、この壮大なオペラを体感するために、毎年世界中から20万人以上もの人々が足を運びます。



© Bregenzer Festspiele/Karl Forster

2019 年 ブレゲンツ音楽





那須塩原・リンツ

©Vorarlberg Tourismus/Michael Kemter



2022 年 ブレゲンツ音楽

私は昨年、母と一緒に「サンクト・マルガレーテン採石場」で開催された野外オペラに行き、リヒャルト・ワーグナー作曲の「さまよえるオランダ人」を観劇しました。歌手の皆さんの素晴らしいパフォーマンスや、とても印象的な舞台装置はもちろん、ドイツ語と英語の字幕もスクリーンに映っていたので、オペラに詳しくなくてもストーリーが追いやすかったです。

また、ウィーン市にあるシェーンブルン宮殿を会場にする、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の「サマーナイト・コンサート」もあります。このコンサートはなんと入場料が無料で、ヨーロッパのクラシック音楽界における最大のハイライトの一つだと言われています。入場は先着順で、毎年 5 万人程度が集まるので、もし皆さんが旅行でウィーンに行って参加する予定があれば、絶対に早めに到着した方がいいですよ！

国際交流員レナさんが
不思議だと思う日本文化

スイカ割り



花火大会から夏祭りまで、日本には素敵な夏の習慣がたくさんありますね。私は初めて、浴衣姿の人々が夏祭りで金魚すくいなどのゲームを楽しんだり、かき氷を食べたりしているのを見たとき、「なんて素晴らしい日本の文化！」と感動しました。



しかし数年前、ある暑い夏の日、当時通っていた日本語学校の先生が突然「じゃあ、これからスイカ割りをするから、みんなで外に行きましょう！」と言いました。その時はまだ日本語がペラペラではなかったため、「SUICA」といえば交通系の IC カードしか頭に浮かばなかった私は、先生の言葉で大変混乱しました。学校の前に本物の大きな果物が置いてあるのを見て、さらにびっくりしました。最初は先生がルールを説明してくれても意味がよく分かりませんでした。実際にやってみたらものすごく楽しかったです！みんなで声を掛け合って頑張って割り、そのあと一緒に美味しいスイカを食べるという時間は、本当に魅力的です。

すね。同じ年の 8 月にホストファミリーの家に遊びに行ったときも、子どもたちともう一度スイカ割りをする機会があり、すっかりこの習慣が好きになりました。

発行：那須塩原市民生活部市民協働推進課（担当：ミルト・ヴェレナ）

事務局：〒325-8501 栃木県那須塩原市共墾社 108-2

TEL：0287-62-7019 FAX：0287-62-7500

Eメール：shiminkyoudou@city.nasushiobara.tochigi.jp

バックナンバー・ドイツ語・英語編：

https://www.city.nasushiobara.tochigi.jp/kurashi_tetsuzuki/shiminsankaku/kokusaikoryu/3/8553.html



バックナンバー↓

